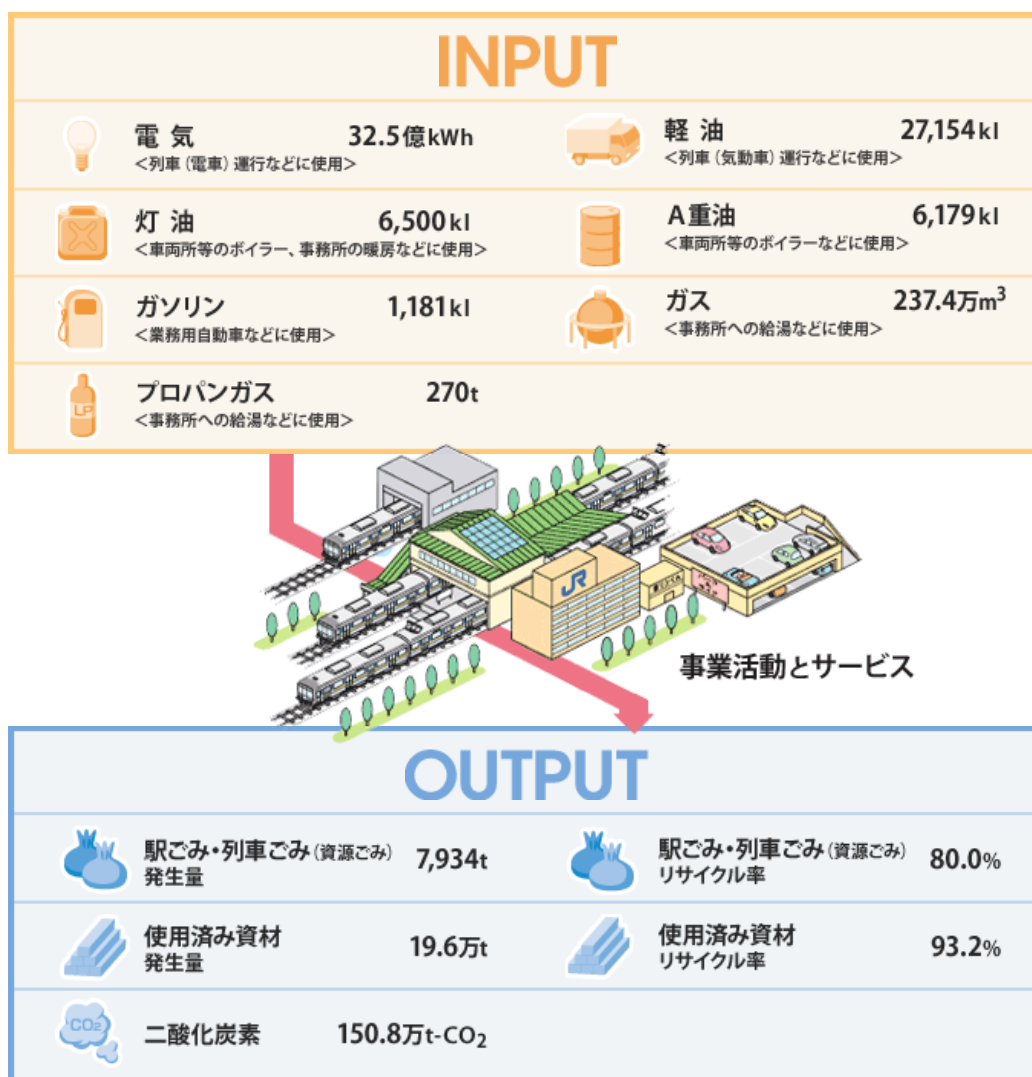


環境報告書 (2008年度)

環境負荷

事業活動を行うにあたっては、電気や燃料などのエネルギーを使用(インプット)し、二酸化炭素などを排出(アウトプット)しています。これらの定量的な把握に努め、環境負荷の低減につなげていきます。



環境会計

環境保全活動にかかわる投資・費用やそれにともなう効果を試算すると以下のとおりとなります。

分類	環境保全コスト (億円)		主な取り組み内容及びその効果	環境保全活動に ともなう経済効果 (億円)
	投資額	費用額		
公害防止コスト	21.3	36.2	<ul style="list-style-type: none"> 排水水の処理・管理 騒音・振動対策 PCBの適正保管 PCB廃棄物処理 オゾン層破壊物質の削減 PRTR法への対応 など 	なし
地球環境保全コスト	526.8	2.2	<ul style="list-style-type: none"> 省エネルギー車両の導入 車両キロあたりの消費エネルギー：1995年度比9.8%削減 省エネルギー車両比率：新幹線96.7%、在来線電車56.6%、 在来線気動車87.2% 省エネルギー設備の導入（高効率変圧器、エスカレーター等） 	71.6
資源循環コスト	1.1	10.4	<ul style="list-style-type: none"> 駅ごみ・列車ごみ（資源ごみ）のリサイクル率：80.0% 鉄道資材発生品のリサイクル率：93.2% 	25.5
管理活動コスト	なし	1.0	<ul style="list-style-type: none"> ISO14001認証維持活動：4箇所 環境マネジメントシステムの水平展開：206箇所 社員研修：ISO14001内部環境監査員養成75名 など 	なし
研究開発コスト	なし	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題にかかわる研究開発 など 	なし
社会活動コスト	なし	0.1	<ul style="list-style-type: none"> ENEX2008出展 産業廃棄物不法投棄原状回復基金 など 	なし
環境補償対応コスト	なし	5.0	<ul style="list-style-type: none"> 須磨・鷹取駅間土壌汚染対策工事 など 	なし

※ 分類項目等は「環境会計ガイドライン（2002年版）」（環境省）を参考

※ 集計範囲はJR西日本本体・集計期間は平成19年度（平成19年4月から平成20年3月）

<集計の考え方>

【環境保全コスト】

- 環境保全コストは把握可能なものを集計。
- 費用額に減価償却を含まない。

【主な取り組み内容及びその効果】

- 環境目標に定めた項目を中心に数値を集計。

【環境保全対策にともなう経済効果】

- 地球環境保全活動においては、省エネルギー車両や高効率型機器の導入にともなう電力・燃料費等の削減額を算出。（推計値）
- 資源循環活動については、事業活動により発生する廃棄物のうち、売却可能な有価物の売却額を計上。